Japan Educational Mutual Aid Association of Welfare Foundation
MIYAGI
きょうこう通信
vol.35
2023年 冬発行

「第52回(2023年度)教育実践研究論文」各賞が決定いたしました！

公募締め切り8月23日までに、今年度も多くの論文をお寄せいただきました。大変ありがとうございました。数次にわたる選考の結果、各賞が決定いたしました。

2023年度　教育実践研究論文助成金　贈呈者

[学校部門]	最優秀賞１校	優秀賞２校	優良賞５校	入選35校
[個人部門]	最優秀賞１名	優秀賞７名	優良賞９名	入選88名

●最優秀賞［学校部門］

No	代表者氏名	学校名	研究題目
1	校長　三浦　道子	柴田町立船迫中学校	不登校生徒が安心して学べる環境づくり

●最優秀賞［個人部門］

No	氏名	学校名	研究題目
2	教諭　成田　大介	宮城県鹿島台商業高等学校	大崎耕土と地域の課題について

（「優秀賞」「優良賞」「入選」「学校賞」及び「講評」は２～６頁をご覧ください。）

受賞者よろこびの声

学校部門　最優秀賞

柴田町立船迫中学校
校長　三浦　道子 先生

栄誉ある賞をいただきましたことに心から感謝申しあげます。本校の「学び支援室」は誰もが学べる居場所づくりからスタートしました。試行錯誤の日々の中、教育相談の要となって生徒・保護者に寄り添いながら尽力した本校養護教諭と、「生徒のためにチームで動く」ことを常とする教職員の働きがあっての受賞です。また、学校の取組に後方支援を惜しまない柴田町教育委員会の理解と協力なくして「学び支援室」は成り立ちませんでした。生徒は、今ある環境の中に居場所を見いだし、確実に前進しています。今後も、実践を重ね、誰もが安心して学べる学校環境づくりに取り組んでまいります。

個人部門　最優秀賞

宮城県鹿島台商業高等学校
教諭　成田　大介 先生

この度の最優秀賞の光栄な受賞を、驚きと感謝の念を抱きながら受けとめております。本校の「世界農業遺産大崎耕土」に関する取組が認められたことを嬉しく思います。この受賞は、ご協力を頂いた大崎地域の皆さまや本校職員のサポートがあってのことと強く感じております。生徒は、教科商業で学んだ知識とスキルの実践やサプライチェーンとの関わりを通して、成功と失敗を経験しながら自信と達成感を獲得しました。今回の受賞を励みに、今後も生徒と共に、地域の課題解決と持続可能な社会の実現に向け、貢献していきたいと考えております。

優良賞以上の論文は、宮城支部Webサイトに掲載しております。

公益財団法人 日本教育公務員弘済会宮城支部
Webサイト　日教弘　宮城支部　検索　https://nikkyoko-miyagishibu.jp/

選考を終えて

選考委員　渡邊　幸雄　髙橋　正憲
齋藤　俊子　川村　英一
杉　　肇子

「第52回（2023年度）教育実践研究論文の募集」に対し、学校部門43点、個人部門105点の応募がありました。猛威を振るったコロナ禍が一段落し、通常の教育活動に戻りつつあることをそれぞれの教育論文から感じることができます。今年度も、学校現場の様々な実践課題に果敢に挑戦していただき、多くの先生方にご応募いただいたことに心から感謝申し上げます。

1　審査概要

研究主題から、各教科や領域のみならず、本県全体の課題である不登校対策や算数の学力向上への取組をはじめ、ICT活用、教員の働き方改革など、自校の現状と課題を捉えた様々な取組が行われていることがわかります。また今年度も幅広い学校種からの応募がありました。その中で、特徴的だったのは、専門性を活かした高等学校からの応募が増え、それぞれ内容が多岐にわたっていたことです。審査の過程では、自校の現状を把握した課題設定になっているか、実践に工夫や改善がみられるか、子どもたちの変容を適切に捉え評価・分析されているかなどを考慮して選考しました。

慎重な審査の結果、最優秀賞学校部門・個人部門で各１点。優秀賞学校部門２点、個人部門７点。優良賞学校部門５点、個人部門９点。さらに学校賞４校を選出しました。

2　選考委員会において

２か月にわたる選考委員会で話題になったことを記します。今後の研究を進める上で参考になれば幸いです。

（1）主題設定について

研究主題が抽象的なものが見られます。研究主題は研究内容を端的に表すものとなるよう工夫してください。また主題設定の理由に多くの字数を費やしている論文が散見されます。一般論ではなく、自校の現状や課題等を簡潔に述べ、課題に即した内容に絞って記述することが望まれます。

（2）図表・写真等の扱いについて

規定のA4判4ページ（図表・写真等を含む）に詰め込みすぎ、図や表の文字や数字が小さすぎて読めないものがありました。図や表は成果の検証となる重要な役割を果たす場合が多いことから、適切な大きさでまとめてください。また、写真は多用せず、挿入箇所や内容を吟味し、文脈と合致させるようにしてください。

（3）ICTの活用について

各教科でICTを活用した実践が多数ありました。令和の日本型学校教育を構築するためには、これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることも重要なポイントだと言われています。効果的な運用方法やツールの活用を図り、子どもたちにとって有用な授業改善に努めていくことを期待します。

（4）成果・課題の分析について

研究の視点を具現化する手立てと、その手立てに基づく適切な評価を行うことで、成果と課題を明確に述べている論文がある一方、「楽しそうに取り組めていた」「良い話し合いとなった」など、指導者側の主観的な評価や感想に終始し、研究の視点から逸れてしまった論文が見受けられます。手立てに基づく成果は何か、そして課題は何か。評価の仕方を工夫しながら、具体的な子どもたちの変容・成長を通して分析しまとめあげることが望まれます。

（5）継続研究について

今年度も学校部門においては複数年の継続研究に取り組んでいる論文が見られます。２年目以降の論文については、当該年度の内容が強調されるよう工夫してください。前年度以上に研究内容が深化していくことを期待します。

3　最優秀論文について

学校部門は、柴田町立船迫中学校の「不登校生徒が安心して学べる環境づくり」です。「学び支援室」を中心に、一人ひとりのニーズに応じた対応や支援者・支援方法の工夫など、学校全体で不登校生徒の学びの環境づくりを行った取組は、本県全体の課題でもある不登校対策に応える実践であると評価されました。３年間の経過が具体的に記載されており、中学校の不登校対策の参考となる論文です。

個人部門は、鹿島台商業高等学校　成田大介教諭の「大崎耕土と地域の課題について」です。総合的な探究の時間の指導では、教員の学習デザインや仕掛けによる間接的な関わりが不可欠であり、試行錯誤しながら授業改善を行ったことにより、成果として生徒の意欲・達成感が醸成された取組であることが評価されました。また地域・行政を巻き込んだダイナミックな実践であることも特筆されます。

4　結びに

実践を積み重ねられている先生方へ。本教育論文の書き手は研究者ではなく教育実践者であるということです。論文の中身は子どもたちの心身の成長に寄与し、日常の教育活動に結び付いたものであり、子どもたちの存在は論文を書く原動力となります。まずは始めてみませんか？

来年度も新たな実践の成果が盛り込まれた多くの論文が寄せられることを期待いたします。

（文責　選考委員　杉　肇子）

2023年度 教育実践研究論文受賞者の皆さま

優秀賞［学校部門］

No	代表者氏名	学校名	研究題目
3	校長 大沼 博	大崎市立古川第一小学校	主体的に学びに向かう児童の育成
4	校長 根岸 一成	宮城県加美農業高等学校	「令和の日本型学校教育」の構築を目指した協働教育の実践

優秀賞［個人部門］

No	氏名	学校名	研究題目
5	教諭 齋藤 由美子	仙台市立榴岡小学校	理科を中心とした防災教育カリキュラムの開発
6	教諭 鈴木 康紀	塩竈市立第一中学校	「主体的に学習に取り組む態度」の測定法とその影響
7	教諭 早坂 英里子	大崎市立川渡小学校	進化し続ける音楽表現を目指して
8	教諭 山内 孝一	栗原市立志波姫小学校	生涯スポーツの基礎づくりを目指した指導法の研究
9	教諭 仙道 大輝	宮城県村田高等学校	実践から学ぶ「蔵を使ったビジネス体験」
10	教諭 藤原 和矩	宮城県涌谷高等学校	生徒たちで作り上げたオリジナルキャラクター制作を通じて育む「答えのない課題」への取り組み
11	教諭 鈴木 崇之	宮城県小牛田農林高等学校	歴史総合「歴史の扉」における自校史活用の試み

優良賞［学校部門］

No	代表者氏名	学校名	研究題目
12	校長 伏見 滋	仙台市立東四郎丸小学校	「守り」から「攻め」の生徒指導・教育相談を目指して
13	校長 河原 正樹	白石市立越河小学校	意欲的に表現し、自分の思いや考えを伝え合う児童の育成
14	校長 堀内 瑞	塩竈市立第一小学校	共に学び合い、考えを深める児童の育成
15	校長 千葉 雅弘	多賀城市立山王小学校	自分の考えを持ち表現できる児童の育成
16	校長 八巻 秀	大崎市立川渡小学校	子供とともに、教師も主体的に学ぶ校内研究を目指して

優良賞［個人部門］

No	氏名	学校名	研究題目
17	学校支援員 渡部 敬	七ケ宿町立七ケ宿小学校	理科における学校支援員の役割
18	教頭 丹野 憲	大河原町立金ケ瀬小学校	社会的な自立へ向けた資質・能力の育成
19	教諭 藤沼 恵美	名取市立増田小学校	道徳教育における家庭との連携を図る一試み
20	教諭 村形 舞香	岩沼市立岩沼南小学校	特別支援学級における主体的に学びを進める児童の育成を目指した一試み
21	講師 須田 千寿	大郷町立大郷小学校	場面緘黙改善のためのＡ児への支援
22	教諭 金子 宏	石巻市立鹿又小学校	Society5.0 の超スマート時代を拓く小学１年生の育成
23	教諭 若松 英治	宮城県工業高等学校	“みやぎＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）”から見る社会課題の解決
24	教諭 安倍 彰人	宮城教育大学附属小学校	これからの時代をよりよく生きる力を育む家庭科教育の実践
25	教諭 鹿内 隆世	宮城教育大学附属小学校	子供が自ら学び進めることで地域への愛情を育む社会科授業

※「No」は通し番号であり、各賞の中の優劣を示すものではありません。

2024年度も教育実践研究論文のご応募をお待ちしております。

2023年度 教育実践研究論文受賞者の皆さま

入選［学校部門］

No	代表者氏名	学校名	研究題目
26	園長 齋藤裕美	大崎市立ゆめのさと幼稚園	友達と楽しく遊ぶ子どもの育成
27	園長 千葉邦子	大崎市立大貫幼稚園	思いを伝え合い、生き生きと遊ぶ幼児の育成
28	園長 澁谷尚男	色麻町立色麻幼稚園	喜んで体を動かす幼児の育成
29	園長 阿部奈美	登米市立米山幼稚園	好奇心の芽を育てる
30	校長 渡邉隆仁	角田市立横倉小学校	進んで学習に取り組む児童の育成
31	校長 相澤武弘	塩竈市立第二小学校	対話を通じて学びを深める児童の育成
32	校長 後藤善史	塩竈市立第三小学校	主体的に表現する児童の育成
33	校長 一條良介	塩竈市立杉の入小学校	粘り強く取り組み、共に学びを深める児童の育成
34	校長 佐々木美奈子	塩竈市立玉川小学校	学ぶ楽しさを実感し、進んで学び合う児童の育成（２年次）
35	校長 山口哲哉	利府町立利府第三小学校	分かる楽しさに気付き、共に学び合う児童の育成
36	校長 小野久行	利府町立菅谷台小学校	自分の考えを表現し、学び合う子供の育成
37	校長 鈴木博幸	名取市立増田小学校	情報を活用し、学び合う児童の育成
38	校長 荒明聖	名取市立不二が丘小学校	学ぶ意欲をもち、主体的に学習する児童の育成
39	校長 鈴木和彦	大和町立吉岡小学校	進んで考えを伝え合う児童の育成
40	校長 和田祐子	大和町立小野小学校	主体的に問題を解決できる児童の育成
41	校長 加勢幸美	富谷市立東向陽台小学校	一人一人に寄り添い、適切な支援のための包括的組織対応
42	校長 玉野井ゆかり	名取市立増田中学校	主体的に学びを深める生徒をめざして
43	校長 佐藤伸	大崎市立敷玉小学校	児童一人一人の思考力・判断力・表現力を高める学習指導の在り方
44	校長 白鳥清文	美里町立中埣小学校	自分の考えをもち、共に学び合う児童の育成
45	校長 滝野澤俊史	加美町立中新田小学校	数学的な表現力を育てる算数科指導（１年次：令和４年度）
46	校長 阿部勝	加美町立鹿原小学校	主体的に学び、確かな学力を身に付ける児童の育成
47	校長 成瀬啓	栗原市立築館小学校	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた算数科指導の在り方
48	校長 小松英明	栗原市立宮野小学校	宮野小学校「自分大好き」推進プロジェクト
49	校長 白鳥武	栗原市立高清水小学校	主体的に考え、確かな学力を身に付ける児童の育成（第３期１年次）
50	校長 安藤真由美	栗原市立栗駒小学校	確かな学力を身に付け、共に学び合う児童の育成
51	校長 今藤良弘	石巻市立桃生小学校	かかわり合いながら、学びを深める桃生っ子の育成
52	校長 渡邊清孝	石巻市立前谷地小学校	自らの課題解決に向けて、確かな学力を身に付ける児童の育成
53	校長 浦山正幸	石巻市立鹿又小学校	今、求められている生徒指導の具現
54	校長 宍戸雅治	東松島市立宮野森小学校	自ら考え、共に学ぶ児童の育成
55	校長 栗田晃	登米市立米谷小学校	生き生きと探究的な学習に取り組む児童の育成
56	校長 岩渕公一	登米市立石森小学校	自らの考えを持ち、関わり合いながら学びを深める児童の育成
57	校長 伊藤秀樹	登米市立米岡小学校	学ぶ楽しさを味わい、互いに高め合う児童の育成
58	校長 三浦利恵	登米市立米山東小学校	自ら学び、進んで考えを表現する児童の育成
59	校長 佐藤宏明	登米市立西郷小学校	ともに学び合い、「わかった！」「できた！」を実感できる児童の育成
60	校長 黒沼俊郎	東松島市立矢本第二中学校	主体的・対話的で深い学びの授業づくりを支える学校経営

入選［個人部門］

※研究グループ含む

No	氏名	学校名	研究題目
61	教諭 鈴木大地	仙台市立八幡小学校	「すべての」子供の学習意欲を高めるデジタル教科書の効果と課題
62	非常勤講師 大友いほ子	仙台市立長町小学校	ＩＣＴ活用で書写の学習がより活動的に
63	教諭 糟谷樹理	仙台市立北六番丁小学校	教室における協働的な学びの実現
64	教諭 蜂屋敬子	仙台市立七郷小学校	ＩＣＴを活用した防災教育
65	教諭 佐藤秀樹	仙台市立小松島小学校	児童・保護者と考える、いじめ防止対策といじめ事案対応の実践
66	教諭 遠藤勝彦	仙台市立東四郎丸小学校	個別最適な学びにおける教師の役割
67	教諭 鈴木整次	仙台市立虹の丘小学校	書写担当として１単位時間（45分間）を有効に活用するための一試み
68	教諭 桑田洋輔	仙台市立泉松陵小学校	「わくわくドキドキ」をサブタイトルにした校内研究

No	氏　名	学　校　名	研　究　題　目
69	教諭　佐　藤　友　宙	仙台市立鶴谷特別支援学校	特別支援学校小学部低学年児童の認知能力を高めるための指導の一試み
70	教諭　齋　藤　和　広	柴田町立槻木小学校	食品ロス削減から始める食育指導の一試み
71	教諭　長谷川　水　季	川崎町立川崎小学校	自分の考えを持ち、課題を互いに探究する児童を目指して
72	教諭　髙　橋　　錬	白石市立白石中学校	知識・技能と思考力・判断力・表現力をバランスよく育成する英語の授業の在り方
73	主幹教諭　浅　野　勝　治	柴田町立船岡中学校	不登校の要因と学校教育の取組についての一考察
74	講師　大　脇　賢　次	柴田町立船岡中学校	小学校学習指導要領（社会科）に見る開発単元の研究
75	教諭　中　嶋　　輝	塩竈市立第二小学校	「学び」「発見」「分からない」をつなぐ授業づくり
76	教諭　鈴　木　芳　幸	塩竈市立月見ヶ丘小学校	低学年児童の道徳的実践意欲と態度を養う指導の一試み
77	教諭　佐々木　　睦	塩竈市立月見ヶ丘小学校	全ての子ども達の可能性を引き出し、主体的に課題解決に取り組む児童の育成
78	教諭　大　森　光　洋	塩竈市立杉の入小学校	初任者研修拠点校指導における実践
79	教諭　千　葉　和　俊	利府町立利府小学校	全国学力学習状況調査（理科）の平均正答率アップを目指して
80	教諭　坂　本　　葵	利府町立利府小学校 (初任研利府小グループ)	「じさま」は、本当に腹が痛かったのか
81	講師　角　田　　研	利府町立利府小学校	読書の魅力とは何だったのか
82	教諭　後　藤　歩　佳	利府町立しらかし台小学校 (初任研しら小グループ)	自分との関わりで考え議論する道徳科の授業づくり
83	特別支援学級担任（知的障害学級）　村　上　祐　介	多賀城市立多賀城東小学校	特別支援学級児童の道徳指導の一試み
84	特別支援学級担任（自閉・情緒学級）　早　坂　雪　男	多賀城市立多賀城東小学校	教育相談の成果と課題
85	教諭　大　槻　征　玄	多賀城市立城南小学校	児童の合意形成や意思決定の力を育む教育実践
86	教諭　豊　田　幸　二	多賀城市立城南小学校	自立活動におけるストレスマネジメント学習と通級指導教室のハブ的機能に関する一考察
87	教頭　川　股　　剛	七ヶ浜町立松ヶ浜小学校	描く活動から入る円と球・三角形の指導
88	校長　渡　邊　裕　希	七ヶ浜町立亦楽小学校	私の理想とした卒業制作
89	主幹教諭　土　井　謙　治	七ヶ浜町立亦楽小学校	教職員の防災意識を高めるための共同体制作り
90	教諭　針　生　武　宏	七ヶ浜町立亦楽小学校	会議の効率化を軸とした多忙化解消への取組
91	教諭　森　元　智　博	名取市立増田小学校	主体的に活動する児童の育成を目指した指導法の工夫
92	教諭　渡　邉　剛　志	名取市立増田小学校	自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える児童の育成
93	教諭　北　澤　直　樹	岩沼市立岩沼小学校	能動的な学び手を育てる『方法選択型探究学習』と『自由選択型家庭学習』の実践と検証
94	教諭　八　巻　大　樹	岩沼市立岩沼小学校	同じまとめを繰り返すことで作品に対する読みを深める
95	教諭（再任用）　手代木　吉　之	岩沼市立岩沼西小学校	年度始めにおける初任者の実践的指導力の育成を目指して
96	教諭　渡　部　智　喜	岩沼市立岩沼南小学校	ＩＣＴを活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業の在り方
97	校長　鈴　木　和　彦	大和町立吉岡小学校	主体的に取り組む児童の育成
98	教頭　津　田　由　里	大和町立吉岡小学校	不登校・登校しぶりのある児童の居場所作り
99	教諭　鈴　木　みゆき	大和町立吉岡小学校	進んで考えを伝え合う児童の育成
100	教諭　佐々木　早　智	大和町立吉岡小学校	進んで考えを伝え合う児童の育成
101	教諭　本　多　真　美	大和町立吉岡小学校	進んで考えを伝え合う児童の育成
102	教諭　渡　辺　　優	大和町立吉岡小学校	進んで考えを伝え合う児童の育成
103	講師　庄　子　隆　志	大和町立吉岡小学校	小学校における外国語教育の実践
104	教諭　菅　原　　淳	大和町立小野小学校	自ら学びを進める力を育成する算数科の授業づくり
105	教諭　池　山　潤　子	大和町立小野小学校	観察の技能と意欲を向上させるための工夫
106	教諭　佐　藤　麻　衣	大和町立小野小学校	社会科を楽しみながら学び、より主体的に学ぶ児童の育成
107	教諭　二　階　美　貴	大和町立小野小学校	特別支援コーディネーターとして、教職員へのサポートの在り方
108	教諭　菅　原　浩　一	大和町立小野小学校	地震の学習から防災に目を向ける子供たちを育てる一試み
109	教諭　佐　藤　秀　一	大和町立鶴巣小学校	グローバル的な人材の育成に向けてⅡ
110	教諭　大　瀧　　優	大和町立鶴巣小学校	主体的に学習に取り組む態度を育成する一試み

2023年度 教育実践研究論文受賞者の皆さま

No	氏　名	学　校　名	研　究　題　目
111	教諭　津　島　弘　子	大衡村立大衡小学校	「ことばの教室」における効率的に構音練習（置換）を行うための一試み
112	教諭　佐々木　　敦	塩竈市立第二中学校	地域の特色・施設・人材を活用した『学びの個展』の仕組みづくり
113	教諭　熊　谷　俊　祐	大崎市立古川第二小学校	教務主任の学校改革「ゆとりのある学校、意識の高い学校」を目指して
114	講師　加　藤　　宏	大崎市立古川第三小学校	生き物観察で困った事例の解決法
115	教諭　早　坂　和　枝	大崎市立古川第五小学校	正しい発音ができる喜びを実感し、日常生活の中で活用していこうとする意欲を育てるための指導と評価の一試み
116	教諭　後　藤　優　佳	大崎市立鹿島台小学校	児童が郷土愛を育むきっかけをつくる生活科の授業
117	校長　滝野澤　俊　史	加美町立中新田小学校	子供・教職員の自己有用感と自己効力感を高めるための一試み
118	教諭　山　田　　晃	栗原市立志波姫小学校	不登校児童への支援の在り方について
119	教諭　若　林　　優	栗原市立志波姫小学校	ＩＣＴ機器を活用した授業実践について
120	教諭　及　川　由美子	栗原市立志波姫小学校	支援学級における「対話的な学び」の試み
121	教諭　小　池　明　美	栗原市立志波姫小学校	楽しい言語通級指導
122	部活動指導員　大　内　　正	大崎市立古川西小中学校	望ましい「部活動のあり方」を模索して
123	教諭　藤　坂　雄　一	石巻市立大谷地小学校	「つなぐ・つながる」を意識しながら、たくましく学ぼうとする児童の育成
124	主幹教諭　井　上　雄　大	石巻市立北上小学校	地域に目を向け未来に希望をもつ児童の育成
125	教諭　荒　谷　拓　実	石巻市立須江小学校	探求的な学びを実現する総合的な学習（探求）の時間の工夫と実践
126	主幹教諭　阿　部　充　宏	石巻市立鹿又小学校	子供たちの生きる力の育成
127	教諭　三　浦　　健	石巻市立鹿又小学校	算数科における個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指した授業づくり
128	教諭　木　村　　剛	石巻市立鹿又小学校	自閉症・情緒障害児童に対する将来を見据えた支援の工夫
129	教諭　菊　地　亜由美	石巻市立寄磯小学校	へき地校における遠隔・オンライン交流学習の在り方
130	教諭　佐　藤　裕　志	登米市立登米小学校	中等度知的障害のＴ男が、平仮名や数字が書けるようにするための一試み
131	校長　岩　渕　公　一	登米市立石森小学校	学校経営とコミュニティ・スクール
132	教諭　浅　野　邦　智	東松島市立矢本第二中学校	デジタルメディアと正しく付き合い、空いた時間を有効活用できる生徒の育成
133	主幹教諭　藤　浦　　悟	登米市立津山中学校	社会的事象の本質を読み取り、公正に判断させる授業づくり
134	養護教諭　伊　東　愛　理	登米市立津山中学校	養護教諭の専門性を生かしたがん教育に関する授業実践
135	教諭　千　葉　貴　幸	気仙沼市立津谷小学校	地域に浮かぶ船「津谷小学校」のかじ取りの育成
136	教頭　小　室　昌　弘	宮城県岩出山高等学校	魅力化委員会を通した地域との連携
137	教諭　津　守　大　智	宮城県涌谷高等学校	防災教育と防災管理の重なる領域における相乗効果
138	校長　匹　田　哲　弥	宮城県南郷高等学校	小規模校・少人数の学校経営から学んだもの
139	教頭　村　岡　正　良	宮城県田尻さくら高等学校	変化が著しい激動の社会の中で、科目履修生受入れの教育的有用性について
140	教諭　石郷岡　信　成	宮城県佐沼高等学校	習熟度の異なる学習集団におけるリテリング指導の課題とその解決法について
141	教諭　八　嶋　貴　彦	宮城県立船岡支援学校	自立活動を主とした教育課程の児童との音楽の一試み
142	副校長　杉　山　秀　樹	宮城県立支援学校岩沼高等学園 川崎キャンパス	特別支援学校におけるプログラミング教育の実践と生徒の困り感の解消・軽減を目指す試み
143	教諭　須　藤　由　子	東北生活文化大学高等学校	中学校公民的分野　生徒の社会への参画意識を高める資料活用の工夫
144	教諭　黒　田　栄　彦	宮城教育大学附属小学校	学級全員が前向きに取り組み、学ぶ、ボール運動指導の在り方への一考察
145	前園長　橋　本　惠　司	石巻市立稲井幼稚園　退職	「絵本は心の教科書」
146	矢　部　智江子	大和町立鶴巣小学校　退職	性の多様性を認める児童の育成
147	星　　純　一	宮城県仙台南高等学校　退職	〈太陽の塔〉
148	教育指導員　坂　本　忠　厚	女川町教育委員会	国際理解教育につながる百人一首指導の一考察

学　校　賞

大和町立吉岡小学校	大和町立小野小学校	栗原市立志波姫小学校
石巻市立鹿又小学校		

(公財)日本教育公務員弘済会　教育研究助成事業

2024年度宮城支部教育研究大会助成事業　募集
2024年度宮城支部教育団体研究助成事業　募集

申請期間　2023年10月２日(月)～12月８日(金)

[教育研究大会助成事業]

教育の振興に寄与すると認められる教育研究大会に対し助成を行う事業。ただし、宮城県内を会場とし県内の教育団体が主催または主管する大会を対象とします（大学・短期大学が主催・主管する大会、学会、研究会等は対象外です）。

- 全国規模の大会　**20万円以内**
- 東北地区大会　**10万円以内**

[教育団体研究助成事業]

教育の振興に寄与すると認められる団体の特に有益な研究活動に対し助成を行う事業。

- 全県及び全仙台市の教職員を対象とした団体　**20万円以内**
- 特定地区の教職員を対象とした団体、退職者で構成される団体　**15万円以内**

詳細はWebサイトでご確認ください。

福祉事業　生活応援企画

プレゼントキャンペーン

映画館で使えるギフトカード３種と図書カードから１つをプレゼント

教弘保険に加入いただいている会員の皆さまに、日ごろの感謝を込めて4種類のプレゼントをご用意いたしました。応募された方の中から抽選で、合計300名の皆さまにご希望の賞品（各5,000円相当）をプレゼントいたします。

希望される方は、弘済会宮城支部のWebサイトから詳細をご確認のうえ、ご応募ください。

記

[応 募 資 格]　教弘保険（A型、B型、K型、S型、ユース、1種、4種、新4種、新教弘）加入者。
※応募期間中に契約が確認できる方が対象となります。

[応 募 期 間]　**2023年９月１日(金)～2023年11月３０日(木)　17：00まで**

[応 募 方 法]　弘済会宮城支部のWebサイトから申込。QRコードをご利用ください。

[抽 選 結 果]　賞品の郵送をもって発表とかえさせていただきます。

「クイズに挑戦して図書カードを手に入れよう」にご応募いただきありがとうございました

「きょうこう通信Vol.34」のクイズの正解は、

1．ほととぎす　2．あさがお　3．とうもろこし　4．ぱいなっぷる　5．ぱぷりか

でした。正解者の中から抽選で20名様に図書カード2,000円分を贈呈いたしました。当選者の方には、応募時にご指定いただいた宛先に送付いたしましたので、どうぞ読書をお楽しみください。

2024年度 貸与奨学生募集

無利息　上限100万円　全額一括交付

2023年度は31名に総額2,775万円を貸与。教弘保険未加入者も対象。

募集期間
- ■ 第Ⅰ期　2024年２月１日(木)～３月29日(金)必着
- ■ 第Ⅱ期　2024年４月１日(月)～５月24日(金)必着

貸与金額
修業期間１年につき25万円（正規の最短修業期間）。最高100万円。

資格
- 文部科学省の所管に属する国公私立の大学院・大学・短期大学・高等専門学校（第４学年以上）、専修学校専門課程に在学または入学が決定していて、学資金の支払が困難と認められる方。（海外の大学等は対象となりません。）
- 2024年４月１日時点で30歳未満であることとします。
- 連帯保証人（保護者等）は、奨学生本人と連帯して返還の責任を負える原則４親等以内の親族等であり成年者に限ります。なお、県内居住は問いませんが、県外居住者の場合、勤務地が県内であることとします。
- 現在貸与を受けている方（返還途中を含む）の兄弟姉妹にも貸与可です。
- 他団体等の奨学金との併用も可です。
- 宮城支部「教育振興事業選考委員会」にて選考します。

返還方法
10年以内（但し、奨学金額100万円借用者に限定し、それ以外は８年以内）に、年賦で口座振替により返還をしていただきます。
無利息ですが、返還を滞納した場合は延滞金をお支払いいただきます。

お申込方法
当支部または教弘担当者にお申し出ください。申請書類をお送りいたします。

申請の流れ

●申請（上記募集期間）：以下の書類をご提出ください。
①奨学生申請書　②付属調査票
③在学証明書（入学前の場合は、入学手続きが完了したことを証明する書類）
④連帯保証人の収入に関する証明書
（市町村発行の所得証明書や源泉徴収票等いずれも直近のもの。コピー可。）
※奨学金は奨学生名義の口座に送金します。
口座がない場合は、新しく口座の開設をお願いいたします。

↓

●選考（Ⅰ期：４月中旬予定　Ⅱ期：５月下旬予定）
選考後、貸与の採否通知を当支部から連帯保証人（保護者等）宛に郵送いたします。
貸与決定の方には以下の書類を提出していただきます。
①借用証書
②連帯保証人の印鑑登録証明書（市区町村発行のもので、発行から３ケ月以内の原本）

↓

●送金（Ⅰ期：５月下旬から順次　Ⅱ期：７月下旬から順次）
奨学生名義の口座に、全額一括交付いたします。

送付先
〒980-0013　仙台市青葉区花京院１-１-５　オークツリー花京院３階
公益財団法人　日本教育公務員弘済会宮城支部　奨学生担当　宛
電話番号　022－346－1525

その他
大学等の卒業の年に、卒業論文・研究の概要、または学習成果についての報告（400文字程度）及び奨学金の主な使途を提出していただきます。

＊詳細は当支部Webサイト（https://nikkyoko-miyagishibu.jp/）をご覧ください。

公益財団法人　日本教育公務員弘済会[略称(公財)日教弘]の教育振興事業（奨学事業、教育研究助成事業、教育文化事業）及び福祉事業は、教弘保険の契約者配当金により運営されており、日本の教育界に貢献しています。

宮城支部の個人情報保護方針(プライバシーポリシー)については、当支部Webサイト(https://nikkyoko-miyagishibu.jp/)をご覧ください。

編集・発行
公益財団法人 日本教育公務員弘済会宮城支部
株式会社 宮城教弘
〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5　オークツリー花京院 3階　TEL(022)346-1525　FAX(022)346-1528
■印刷：株式会社 東北プリント

UD FONT